

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
○地域とともに成長し、保護者・地域から信頼される学校 ○すすんで挨拶、掃除ができる生徒 ○生徒にメリハリ(優しく・厳しく・温かく)をもって接することのできる教員		・基礎、基本の確実な定着 ・自主的・自発的な学習態度	・箱崎ノートの個人差に対応するため、学習の達成度に応じた個別指導の内容と方法について全職員で検討し、点検、指導を徹底する。 ・学力調査の結果分析と課題把握について全職員で検討を行い、研修の機会を増やす。
		・規範意識の向上 ・心の教育の充実	・「時を守り 場を清め 礼を正す」を引き続き学校スローガンとし、多くの取組に活かすとともに、それぞれの深化を目指す。 ・よりよい人間関係づくりのための人権教育や心の教育を推進する。
		自己有用感の向上	・地域の一員としての自覚をもたせるとともに、地域に必要とされる中学生、地域の役を担う中学生を目指す。 ・生徒が出来る限り地域の行事に参加できる体制づくり、日程調整を行う。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
学習規律の定着とわかる授業づくりによる取組を徹底し、学力向上を図る。	箱崎ノートを活用した家庭学習の毎日の実施(提出率90%以上)と担任、副任による点検、助言を行う。(取組指標)	・箱崎ノートの提出率は常に90%以上を上まわることができた。また、担任、副任による点検作業、助言等も効率よく行われ、生徒指導、学習指導、生活指導へと繋ぐことができた。	
	全教科、全職員による公開授業を2学期に実施する。(取組指標)	・全職員による公開授業を2学期に一ヶ月の期間を設け実施することができた。特に今年度は、「若手職員がベテラン職員から学ぶ」をテーマに取り組んだ。	
	福岡市学習定着度調査等で全教科市平均を上回る。(成果指標)	・2学年では、国語が市平均同等、数学が市平均を上まわる結果となった。1学年は、2教科とも市平均を下回る結果となった。	
	生徒による授業・学習評価で、自ら学ぶ姿勢が身に付いているの肯定的評価が75%以上。(現在68%) (成果指標)	・生徒による授業・学習評価で、自ら学ぶ姿勢が身に付いているの肯定的評価が61%で、昨年度の68%を下まわった。	
基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上を図る。	「時を守り・場を清め・礼を正す」を学校スローガンとし、多くの取組の中に活かす。(取組指標)	・時を守ることで、時間を有効に活用する、場を清めることで感動を与える、礼を正すことで感謝の気持ちを伝えるという行動が身に付いてきた。	
	週一回の生徒指導委員会で状況報告と指導改善に向けた協議を行い、迅速・正確・丁寧な指導を行う。(取組指標)	・問題、事案発生時には、常に迅速、正確、丁寧な対応ができた。また、職員、保健室、ssw、scとの連携もとれた。	
	生徒アンケートで、挨拶習慣や清掃習慣の定着に関する肯定的回答が85%以上。(成果指標)	・生徒アンケートで、挨拶習慣の定着については89%、清掃習慣の定着については90%が肯定的回答をした。	
地域・家庭との連携強化を推進し、自己有用感の向上を図る。	遅刻者ゼロの日を年間100日達成する。(成果指標)	・遅刻者ゼロの年間100日達成については、2学期後半で達成することができた。これは、生徒会の尽力と生徒の意識向上の成果だと思う。	
	「地域の一員活動」として、地域の手助け、役となるような行事に参加できる機会を増やす。(取組指標)	・「校区夏祭り」「放生会清掃」「校区運動会」「校区文化祭」「保育園、病院訪問」「校区防災訓練」等、多くの地域行事に参加することができた。	
	学校だよりやHPを利用した情報提供(学校だよりは月2回以上、HPは月3回以上更新)を行う。(取組指標)	・学校だより「箱崎の風」は平均して月に3回発行することができた。HPは、2学期途中にデータやりとりの不都合が起り、一時更新ができなくなったが、3学期に修復できた。	
	生徒・職員の地域活動への参加者数が前年度を上回る。(成果指標)	・地域への行事には多くの生徒、職員が参加できた。特に、「放生会清掃」には昨年を大きく上まわる170名の参加、「玉取祭」には職員も含め15名が参加することができた。	
生徒アンケートで、行事に積極的に参加しているという肯定的回答が90%以上。(成果指標)	・90%以上の生徒が、学校行事に積極的に参加していると答え、地域の行事にも多くの生徒が参加し、年間4回以上地域行事に参加していると答えた生徒が23%となった。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
・学力についてはすぐに効果が出るものではないと思うので、継続した取り組みを続けてほしい。		・自己有用感の向上については、地域との	
関わりがおおくなっている事が地域行事への参加人数の増加というところからも見えるので、今後も続けてほしい。			